

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票（案）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段：達成値(H27) 下段：目標値(H27)】	値の説明	数値					
I	収蔵資料の整理・保存 有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績	6694件	1	B	上段：デジタル化 下段：受入資料数	
					資料総点数	63053件				
		2	収蔵資料の受入	今年度実績	1703点	4	上段：資料収集点数 下段：館設定の目標			
				館設定の目標	600点					
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出（外部機関等展示等）	今年度実績	3件	4	B	上段：貸出点数 下段：申し出のあった数	
					申し出のあった数	3件				
			4	館内利用（学術調査等）	今年度実績	14件	4	新規		
					申し出のあった数	14件				
		5	著作物資料への利用（出版物掲載等）	今年度実績	11件	4	新規			
				申し出のあった数	11件					
		調査研究	6	調査事案件数	件数	今年度実績	11件	4	B	上段：実績値 下段：館設定の目標
						館の計画	11件			
7	共同調査事案件数		件数	今年度実績	3件	4	上段：実績値 下段：申し出のあった数			
		申し出のあった数		3件						
8	研究成果の公開状況	論文研究報告	今年度実績	9件	3	上段：実績値 下段：館設定の目標				
			館の計画	11件						
大項目Iの総合評価（A～D）							B			
博物館コメント	2は受動的な受入だけでなく、館の資料収集活動で採集したものも含んでいる。博物館資料は、有効活用の件数の想定して収集・保管されるものではないため、3-5の細項目については、申し出があった案件にすべて対応したため、総合評価をBとした。6の調査事案件数は「房総半島の海洋生物相とその特徴」の各部門（3件）と詳細分野（8件）としたため、昨年度の実績と比較した結果である。									
有識者コメント	【石川】多くの収蔵品活用のため、デジタル化は望まれる。職員の意識向上にもなるので継続すべきである。									

分類	大項目	中項目	小 項 目				達成 状況	総合 評価	備考		
			上段：達成値(H27) 下段：目標値(H27)】		値の説明	数値					
II	入館者数と 来館者の満 足度	来館状況	1	博物館	入館者数	今年度実績	69319人	4	A	上段：実績値	
						館設定の目標	52000人			下段：館設定の 目標	
			2	企画展 (マリンサイエンス ギャラリー)	入館者数	今年度実績	12730人	4		上段：実績値	
		館設定の目標				8200人	下段：館設定の 目標				
		3	企画展 (収蔵資料展)	入館者数	今年度実績	20637人	4	上段：実績値			
					館設定の目標	20000人		下段：館設定の 目標			
		4	常設展示	更新回数	今年度実績	55回	4	A			
					館設定の目標	50回					
					5	企画展 (MSG、収蔵資料、写真 展)					実施回数
館設定の目標	2回										
6	企画展 (トピックス展)	実施回数	今年度実績	回	/	該当なし					
			館設定の目標	回							
7	博物館	アンケート満足度 「とっても良かった」+「良かった」 の割合	今年度実績	92%	4	A					
			今年度実績	90%							
			今年度実績	97%							
大項目IIの総合評価 (A~D)							A				
博物館コメント	収蔵資料展期間中の入館者数は昨年度実績をやや下回ったが、年間を通した入館者数は昨年度を上回ることができた。展示更新回数・企画展等の満足度(80%以上と固定)も目標値を上回ることができた。以上から、項目IIの達成度はAとした。										
有識者コメント	【石川】豊かな収蔵品を活かすことと、手に触れたり手作業を行う等の体験を考えたい。										
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率		今年度実績	104%	4	B	
							館設定の目標	100%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数		今年度実績	1件	2		
						館設定の目標	2件				
大項目IIIの総合評価 (A~D)							B				
博物館コメント	入場料収入は昨年をやや上回り、外部資金の獲得件数は目標値(科研費1件、財団等のファンド1件の計2件)の半数であった。										
有識者コメント	【石川】外部資金の導入はますます重要となっており、研究願いたい。										

分類	大項目	中項目	小 項 目				達成 状況	総合 評価	備考
			上段：達成値(H27) 下段：目標値(H27)]		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HPでの情報発信	アップ数	今年度実績	59回	4	B
					館設定の目標	30回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	40894件	3	
						昨年度実績	42058件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	93件	3	
						館設定の目標	100件		
大項目IIIの総合評価（A～D）							B		
博物館コメント	ホームページの更新回数は目標値を大幅に上回っているものの、アクセス数が昨年度を下回った。魅力あるコンテンツの検討が必要と思われる。								
有識者コメント									
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	52校	4	A
					要望があった数	52校			
			2	入館者数	今年度実績	2753人	4		
					要望があった数	2753人			
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	2753人	4	
						要望があった数	2753人		
		4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	今年度実績	9校	4		
				要望があった数	9校				
		5		利用者数	今年度実績	443人	4		
				要望があった数	443人				
		地域関係団体との連携	6		団体数	今年度実績	32団体	4	
					要望があった数	32団体			
			7	連携・共催（大学、NPO等）	利用回数	今年度実績	34回	4	
					要望があった数	34回			
8			利用者数	今年度実績	1240人	4			
			要望があった数	1240人					
9	友の会活動	利用人数	今年度実績	人	/				
			昨年度実績	人					
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	149人	3				
			昨年度実績	179人					
大項目IVの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	他団体との連携は、野外実習授業（磯観察を伴った学校への対応）、団体フィールドトリップ（磯観察を伴った社会教育施設、教員部会等への対応）、展示解説（バックヤードを含めた施設内見学対応）として要望のあったものすべてを受け入れた。								
有識者コメント									

分類	大項目	中項目	小 項 目				達成 状況	総合 評価	備考	
			上段：達成値(H27)	下段：目標値(H27)	値の説明	数値				
VI	教育・普及 活動	来館状況	1	観察会	参加者数	今年度実績 145人 募集員数 190人	2	B		
			2	講座	参加者数	今年度実績 18人 募集員数 60人	1			
			3	フィールドトリップ	参加者数	今年度実績 220人 募集員数 150人	4			
			4	バックヤードツアー	参加者数	今年度実績 72人 募集員数 60人	4			
			5	タッチプール	参加者数	今年度実績 291人 募集員数 160人	4			
			6	みんなで工作	参加者数	今年度実績 160人 募集員数 120人	4			
			7	体験コーナー	参加者数	今年度実績 260人 募集員数 240人	4			
		総合的な 満足度	8	観察会	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	98.60%	3	B	
			9	講座		今年度実績	100%	4		
			10	フィールドトリップ		今年度実績	98.70%	3		
			11	バックヤードツアー		今年度実績	97.40%	3		
			12	みんなで工作		今年度実績	100%	4		
		利用状況	13	相談件数 (来館、メール、電話)	利用件数	今年度実績 834件 要望数 834件	4	A		
大項目Vの総合評価 (A~D)							B			
博物館コメント	講座において定員の充足率が低かったが、人事上の問題によって担当研究員の専門分野が当館の特性に一致していないことが一要因と考えられる。他の行事の定員充足率は概ね高いレベルである。参加者の満足度は目標としてアンケートの「とても良かった」+「良かった」の割合を80%以上に固定している。従って、この項目の結果は極めて高い。									
有識者コメント	【石川】満足度も高く、当館の目玉事業の一つであり、継続すべきである。事故なく、天候にかかわらず実績をあげた点が評価されるべきである。									
VII	人材育成と 安全管理	実習 研修	1	博物館実習	今年度実績	人 人	4	A	該当なし	
			2	教員等の研修	今年度実績 78人 要望があった数 78人					
			3	職場体験	今年度実績 9人 要望があった数 9人	4				
			4	インターシップ	今年度実績 0人 要望があった数 0人				希望者なし	
		安全管理	5	研修会の開催	今年度実績 1回 館の計画 1回	4	A			
			6	防災訓練実施等	今年度実績 2回 館の計画 2回	4				
大項目VIIの総合評価 (A~D)							A			
博物館コメント	1~3の実習の要望にはすべて対応したため、達成度を100%とした。安全管理も計画通りに実行することができた。									
有識者コメント										

分類	大項目	中項目	小 項 目			達成 状況	総合 評価	備考
			上段：達成値(H27) 下段：目標値(H27)]		値の説明			
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	41団体	2	C
					昨年度実績	52団体		
			2		今年度実績	2571人	2	
					昨年度実績	3222人		
			3	外国人来館入込	今年度実績	1団体	2	
					昨年度実績	2団体		
			4		今年度実績	176人	3	
					昨年度実績	186人		
大項目VIIIの総合評価 (A~D)						C		
博物館コメント	県外の団体の入場について、学校関係は予約でほぼ前年並み、学校外では予約なしの飛び込みが多い。目黒区、小金井市等は毎年多くの小学校が来館する。初めて来館する学校等が来年以降も来館してくれるよう丁寧な対応をして常連の団体を増加させることが必要。一方、飛び込みの団体や外国人については対策が立てにくい。							
有識者コメント								
総合評価 (A~D) [各達成度の平均]						B		
総合評価と次年度への対策	入館者数の増加や企画展示の満足度、団体の受け入れ要請への対応など、対外的サービス面では達成度が高い。その反面、資料のデジタル化や研究成果の学術論文としての公表件数など、博物館の屋台骨となる活動の達成度が低い。長期的に見ると、資料の充実や研究時間の不足は展示や教育普及などのレベル低下を招くことが懸念される。次年度は資料収集や調査研究へ多くの時間が割けるよう、館全体の事業を見直す必要があるように思われる。							

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	【石川】 地理的条件と、今年度の天候を考えると、努力の成果が見られ評価できる。収蔵品の活用と目新しい企画が望まれる。そろそろ常設展の展示替えを考える時期ではないだろうか。
	【飯田】 総体的に「B」評価は妥当と思います。それぞれの環境の違いからヒト・モノ・カネの配分の見直しはすべきと考えますが、博物館と言う特性を考えたときに単年度計画だけでは人事によるプレが生じることに懸念。予算が単年度なのは承知しているが中期的な計画により方向性をハッキリ示してそれを単年度目標に落とし込んでいくべきと感じます。博物館の屋台骨をしっかりとさせつつ、より多くの入館者と満足度の向上をお願いしたい。

【博物館記入】

意見への対応	今回の評価項目に「長期計画を設けているか」がなかったので触れる機会がありませんでしたが、当館では資料収集、企画展示（マリンサイエンスギャラリーおよび収蔵資料展）、教育普及（海の生きもの観察ノート）について、長期計画を設定して事業に取り組んでいます。資料収集は3年ごとに、様々な海洋環境をもつ県内各所で重点水域を決め、収集を行います。また、千葉県の特徴を明確にする目的で、比較として県外の調査地域も設定しています。企画展示では、少なくとも向こう5年間の仮タイトルと担当者を決め、該当年度に向けての諸活動を進めています。海の生きもの観察ノートは、海洋生物の専門的な内容を様々な社会教育で役立ててもらうための冊子です。本事業も各年度にテーマ（主に扱う分類群）と担当者を決定しています。これらの事業の成果が各年度の活動に落とし込まれています。 以上のように、海の博物館は、資料収集をはじめ、展示や教育普及活動と言った博物館事業の全領域において長期的な計画を構築し、それを体現しています。そして、その全ての基盤となるのが調査研究事業です。この調査研究があって始めて博物館事業が成立していることは自明の理であり、その成果を博物館利用者等に還元していく姿勢も全職員が有しています。
--------	--